

2022

令和4年度「学部教育充実予算」

# 体育・スポーツの エキスパート育成プログラム 事業報告書

- アスリート・コーチ
- アスリートサポート
- 保健体育教員
- 健康運動指導者
- 生涯スポーツ教育者
- キャリア教育

福岡大学スポーツ科学部

令和4年度「学部教育充実予算」

# 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム

事業報告書

## 目次

挨拶	01
プログラムについて	02
アスリート・コーチ育成プログラム	05
アスリートサポートプログラム	09
保健体育教員採用試験対策プログラム	11
健康運動指導者試験対策プログラム	13
生涯スポーツ教育実践プログラム	14
キャリア教育実践プログラム	16
令和4年度 成果一覧	19

# 挨拶

## スポーツ科学部長 米沢 利広

スポーツ科学部では、平成 23 年度からスタートした本学企画の「魅力ある学士課程教育支援プログラム」に申請し、2 年間に亘り 820 万円の支援を受けることができました。その内容は、平成 22 年入学生からスタートさせた本学部の新カリキュラムにタイアップしたものでした。新カリキュラムは、学生が就職等の進路先を視野に入れた科目履修ができるよう方向付けする(コース科目推奨群の設定)とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。その新カリキュラムがこのプログラムに非常にマッチしたものであると考え、「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」と称して申請し、採択され、これまで多くの成果を得ることができました。

平成 25 年度からは「教育推進経費」として 3 年間で 1,174 万円、平成 28 年度からは「暫定的教育予算」として 2 年間で 879 万円の支援を受け、同様のプログラムを実施してきました。平成 30 年度からは「学部教育充実費」として 260 万円に減額されたものの、プログラム内容を縮小して実施してきました。そして、平成 31 年度および令和 2 年度は 430 万円に増額され、以前と同様なプログラムを実施することができ、プログラムの定着とコース色が色濃く出るような成果に繋がってきました。令和 3 年度以降は 298 万円に減額されましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、いくつかのプログラムが実施できず学生教育に十分繋げることができなかつたことは残念です。

本プログラムは、「アスリート・コーチ育成プログラム」「アスリートサポートプログラム」「保健体育教員採用試験対策プログラム」「健康運動指導士試験対策プログラム」「生涯スポーツ教育実践プログラム」「キャリア教育プログラム」の 6 つのプログラムで構成されています。スポーツ科学科 4 コースと健康運動科学科 3 コースにマッチングした内容であると同時に、授業(単位)での内容と深く関わり、スポーツ科学部の教育と魅力づくりに中心的な役割を果たすようになってきました。

令和 4 年度は、健康運動実践指導者 8 名と健康運動指導士 5 名の合格、そして保健体育教員の現役合格者 9 名(小学校 2 名、中学校 6 名、高等学校 1 名)など、成果が現われていますが、令和 2 年度以降グローバル人材育成にも寄与している海外研修が行えなかつたことは大変残念です。また、2 年次生対象の「ステップアップセミナー」では、昨年度 UNIVAS のデュアルキャリアプログラムを用いた「キャリア教育プログラム」が、UNIVAS AWARDS 2021-2022 の「キャリア支援に関する優秀取組賞」を受賞いたしましたので、令和 4 年度においても引き続き継続して、学生のキャリア教育支援を行ないました。令和 4 年度に課外教育活動で優秀な成績を収め、スポーツ賞を受賞したのは、6 団体および 20 名でした。各プログラムの詳細及び成果等については、各プログラム責任者が報告していますのでご一読ください。

令和元年に学部創設 50 周年を迎え、令和 2 年以降さらなる飛躍を目指してスタートする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、すべてのプログラムを実施することができませんでした。特に、グローバル人材を育成する目的で、海外に学生を派遣する研修が行えなかつたことは大変残念です。令和 5 年 5 月以降新型コロナウイルス感染症が「5 類感染症」に移行することより、令和 5 年度はすべてのプログラムが実施されることで、スポーツ科学部の教育に貢献することを切に願っています。最後

になりますが、本プログラムを実践するにあたり、大学のご理解とご支援並びに学部教育に関わる多くの関係者のご尽力に厚くお礼申し上げます。

# プログラムについて

## コーディネーター 今村 律子

スポーツ科学部では、平成 22 年度入学生からカリキュラムの改編に伴い、福岡大学の「魅力ある学士課程教育支援プログラム（体育・スポーツのエキスパート育成プログラム）」とタイアップしてさまざまなプログラムを実行してきました。その後、カリキュラムの完成年度（平成 25 年度）にその効果を検証した結果、大きな効果が認められました。平成 25 年度以降は、「教育推進経費」により本プログラムを継続し、平成 28 年度からは、減額されたものの「暫定的教育予算」によって継続してきました。そして、平成 30 年度からは「学部教育充実予算」として同様のプログラムを実施しました。このプログラムは、現カリキュラムの特徴である推奨コースと連携をとるプログラムが多く、教育的な効果も高くなっており、スポーツ科学部の魅力をつくり出す重要なプログラムとなっています。

現カリキュラムは、1 年次生の学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向づけをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」は、本学部の現カリキュラムと非常にマッチしたものであり、これまで多くの成果を得ることができました。平成 30 年度においても「学部教育充実予算」で申請し、これまでと同様のプログラムを実施してまいりました。それぞれのプログラムでは、コースの特性により、期待以上の成果が上がってきました。

本年度は、コロナ禍で加速したオンライン形式も活用し、より充実した教育内容に進化させられたのではないかと感じています。各担当者が多様な学びを提供し、工夫した成果が得られたのではないのでしょうか。学習形式のバリエーションは多様化し、当学部のオリジナルプログラムの新しい形としても進化し続けると期待されます。

## プログラムスタッフ

◇統括 米沢利広

◇アスリート・コーチ育成プログラム

乾 眞寛 米沢利広 片峯 隆 村上 純

田口晴康 柿本真弓 坂本道人

田場昭一郎 長島 村川 誠

◇保健体育教員採用試験対策プログラム

柿山哲治 梅田保人 今村律子

◇生涯スポーツ教育実践プログラム

霜島広樹 藤井雅人 築山泰典

◇コーディネーター 今村律子

◇アスリートサポートプログラム

下園博信 布目寛幸 川中健太郎

森口哲史 吉田一也

◇健康運動指導者試験対策プログラム

道下竜馬 山口幸生 川中健太郎

◇キャリア教育プログラム

野口安忠 川上翔太郎 吉田一也

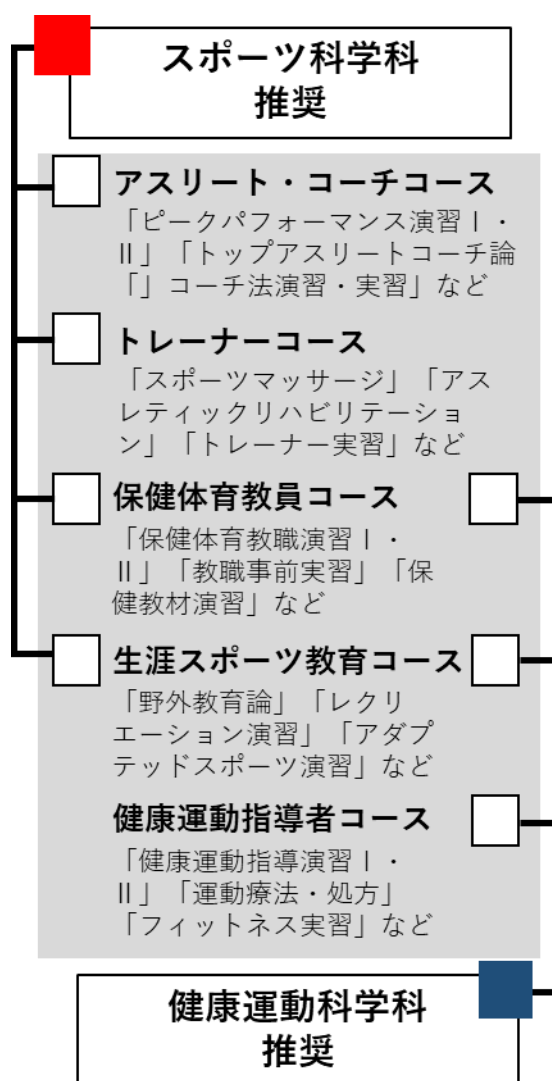
◇会計 福 由紀

## プログラム概要

### 目標と特徴

スポーツ科学部では、平成 22 年度からスタートした現カリキュラムに向けて様々なプログラムを準備して実践してきた。新カリキュラムは、学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向付けをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものである。アスリート・コーチコースでは、平成 20 年度から 3 年間継続した「トップアスリート強化・支援のための実践プログラム」を一部継続しながら、全国大会上位入賞者および団体（チーム）のさらなる増加を、保健体育教員コースでは、3 年次からの人数制限科目の設定等により、教員採用試験の現役合格者あるいは卒後早期合格者の増加を、健康運動指導者コースでも 3 年次からの専門家養成教育に重点を置くことにより、健康運動実践指導者および健康運動指導士の合格者の増加を、そしてトレーナーコースと生涯スポーツ教育コースでは、アスティックトレーナーやトレーニング指導者、野外教育・レクリエーション指導者などのエキスパート育成を目指している。

アスリート・コーチコースの学生には、国内外で活躍する指導者や選手を招聘し、継続的な動機づけと明確な目標設定を行わせ、より高度な競技レベルへのチャレンジ精神と自発的に学ぶ姿勢を身につけさせる。さらに、国内外での研修を奨励し、国際的視野で活躍する人材を育成する。また、アスリートサポートプログラムでは、栄養サポート、メンタルサポート、フィジカル&バイオメカニクスサポートなどにより、サポートのエキスパート育成が期待できる。保健体育教員コースの学生には、教員採用試験突破に向けた講習会と勉強会を、健康運動指導者コースの学生には、健康運動実践指導者および健康運動指導士の試験合格に向けた講習会と勉強会を設定することで、意欲ある学生への支援が可能となる。トレーナーコースや生涯スポーツ教育コースの学生には、実践教育の場を供給できる点で効果が期待できる。また、2 年次生の開講科目「ステップアップセミナー」では、職業意識を高めるために、様々な職種の講師を招聘している。



# アスリート・コーチ育成プログラム

担当責任者 乾 眞寛

2011年度から始まった「体育・スポーツのエキスパートの育成プログラム」は、11年目を終えた。2008年度に開始した「トップアスリート強化支援のための実践教育プログラム」3ヶ年を合わせると、計14年間継続されてきたことになる。

プログラム当初の目標は、競技面での実績を高めることであり、世界的スケールで活躍する一流アスリートやコーチを本学にお招きし、その貴重な経験談を定期的に聞ける場を現役学部生に提供することであった。そして、日本トップレベルを目指す志の高い学生を海外研修に派遣し、九州内や国内では経験できない環境に身をおくことで、高いモチベーションや挑戦する心を刺激することであった。

この継続した取り組みの成果により、日本国内のトップレベルで活躍する福大生アスリートの数は、年々飛躍的に増加し、全国ベスト8以上の入賞者または国体、チームは、プログラム開始前に比べて格段に増えている。また本年度は、女子柔道部が全国大会で準優勝、女子バレーボール部が全日本インカレで第3位を果たしている。

2年次生に開講された「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」では、授業内に計4回、外部講師をお招きし、トップアスリートから直接に経験談や苦労話、失敗談をお聞きする機会を設けている。本年もさまざまな競技の講師陣をお迎えして非常に有益なお話を聞く機会となった。2年生には大きな刺激となり、関心度が強く、講義への出席状況も良好で、授業後に提出する課題レポートの感想文からも学生各自の心に大きく響くものがあったことがわかる。

3年次開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」は、国内外での極めてハイレベルな実践活動をしている場所に出向き、研修計画ー参加ー報告といった実績が単位化されるという学部特性が反映された科目であるが、本年度もコロナ禍の影響から、国内外ともに研修は中止となった。これまで行ってきた当研修は、学生たちにとって、国内トップクラスの環境へ挑戦の場を広げるきっかけとなっている。その成果は、研修終了後に現役学生たちへとフィードバックされ、ハイレベルな環境で実践的なトレーニングを経験することが、いかに人を成長させるか？ということ、身をもって実証してくれている。研修を終えた学生は、チームの主力選手として活躍するだけでなく、卒業後には、プロスポーツ、実業団リーグ、全日本選手権など、活躍のステージを上げ、スケールアップした姿を見せてくれている。この研修が安心して再開されることを願うばかりである。

これからも「九州の雄」にあまんじることなく、目標水準を高く保ち、グローバルなスケールで活躍できる人間性豊かなトップアスリートを育成することが、本プログラムの使命であると考えている。

プログラムを実施するにあたり、ご支援、ご協力いただいたミズノ株式会社様、その他の皆様に、心より御礼申し上げます。「福岡発、日本一経由、2024パリ五輪、世界行!!」これからも、福大生アスリートの更なる活躍に、熱いご声援を宜しくお願い申し上げます。

## 特別講演会 ゲスト講師

### 官野 一彦 氏 ウィルチェアラグビー日本代表

1981年8月1日千葉県袖ヶ浦市生まれ 木更津総合高校卒

リオデジャネイロパラリンピック銅メダリスト

現在はパラサイクリングで世界も目指す傍ら、実業家として活躍中

2012年 ロンドンパラリンピック 4位

2015年 アジアオセアニアゾーン選手権 優勝 Best Player 賞受賞

2016年 リオデジャネイロパラリンピック 銅メダル

2017年 アジアオセアニアゾーン選手権 2位

2018年 ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会 優勝  
世界選手権 金メダル



(2022年6月23日開催)

### 田端 健児 氏 陸上競技選手

日本大学卒業

1996年 アトランタオリンピック出場 マイルリレー(4×400mR)代表

1998年 アジア選手権 400m 3位 45秒69/4×400mR 優勝 3分02秒61 (1走)

1998年 アジア大会 400M 7位/4×400mR 優勝 3分01秒70 (2走、大会新)

アジア選手権 400m 3位 45秒69/4×400mR 優勝 3分02秒61 (1走)

1999年 世界選手権 400m 予選1組6着 46秒42/4×400mR 予選1組4着 3分02秒50 (3走)

2000年 シドニーオリンピック出場 400M・マイルリレー(4×400mR)代表

2001年 世界選手権 400M 予選2組7着 46秒68/4×400mR 予選1組4着 3分02秒75 (1走)

2002年 アジア大会 400m 7位 46秒61/4×400mR 4位 3分05秒85 (2走)

2003年 世界選手権 4×400mR 7位 3分03秒15 (3走)



(2022年6月29日開催)





## 原田 裕花 氏 バスケットボール選手

1968年6月5日 埼玉県越谷市生まれ。小学校3年でミニバスケットボールを始める。  
山口県富田中学校・大分県藤蔭高校

- 
- 1986年 アジアジュニア選手権 3位
  - 1987年 日本リーグ優勝、新人王獲得、皇后杯優勝、日本代表への選出
  - 1988年 左膝前十字靭帯断裂 手術
  - 1989年 日本リーグ優勝 皇后杯優勝、カムバック賞受賞
  - 1990年 シンガポールアジア選手権 3位 (チームキャプテン、日本代表キャプテンを務める (~1995年))
  - 1992年 ソウルアジア選手権 3位、皇后杯準優勝、スティール賞受賞
  - 1994年 広島アジア大会 2位、アシスト第2位、皇后杯優勝
  - 1995年 右膝前十字靭帯断裂 手術 (5ヶ月入院)
  - 1996年 アトランタオリンピック 7位入賞  
(バスケットボール女子日本代表 20年ぶりオリンピック出場)

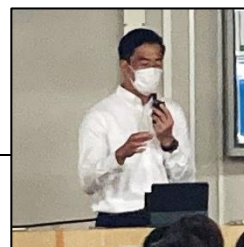


(2022年7月6日開催)

## 桑水流 裕策 氏 ラグビー選手

1968年6月5日 埼玉県越谷市生まれ。小学校3年でミニバスケットボールを始める。  
山口県富田中学校・大分県藤蔭高校

- 
- 2005年 7人制日本代表初選出
  - 2009年 ラグビーワールドカップセブンズ 2009 出場
  - 2013年 ラグビーワールドカップセブンズ 2013 出場
  - 2014年 アジア大会 金メダル
  - 2016年 リオデジャネイロ五輪 4位
  - 2021年 現役引退



(2022年7月13日開催)

### 受講生レポート

(官野さんの講話より)

「官野さんの講演を聞き常に前向きに何事にもチャレンジすることが自らの成長に繋がるという話にとっても感銘を受けた。今の自分の競技生活に置き換えて考えると今後のやるべきことが明確になったよう

に感じる。

「新たに自転車競技に挑戦し、再び挫折を味わったお話を聞いて、常に挑戦し、壁を乗り越えるエネルギーを持ち続けていくことの大切さを知りました。」

「今の時代はアスリートもさまざまな媒体を用いて自己アピールしていくことが重要であり、自分の市場価値を高めていくためには競技とともに自己研鑽が必要であると勉強になりました。」

**（田端さんの講話より）**

「田端さんの競技人生でのさまざまな成功と挫折のお話を聞いて、私が今悩んでいることの小ささに気づきました。挫折をしてさらに強くなるその繰り返しが競技力向上の近道と聞き今後のどんな壁にも負けずに頑張りたいと思いました。」

「オリンピズムの話聞き、スポーツの素晴らしさを改めて感じました。オリンピックに出た人にしか分からない大会の裏側や他競技の方々との関わりなどについて聞くことができ、貴重な時間になりました。」

**（原田さんの講話より）**

「前十字靭帯断裂の大怪我を追い、さらに経過もうまくいかない時期がありながらも前向きに取り組み、不可能だと言われたオリンピックに間に合わせたお話を聞き、自分の限界を決めつけずに前向きに取り組むことの大切さを改めて知りました。私もリハビリ頑張ります！」

「今回の講演を聞き、キャプテンの姿はさまざまあり、リーダーの姿もたくさんあることを知りました。自分に合ったリーダー像を見つけるためにまずは自己分析からしたいと思います。」

**（桑水流さんの講話より）**

「桑水流さんの講演を聴いて、自分自身を取り巻く環境や人を動かすキャプテンやリーダーとしての在り方、夢や目的、目標の意義を改めて考えることができました。今を大切にして、日々の鍛錬に取り組もうと思います。」

「今回の授業では、リーダーシップと目標・目的の持ち方について学びました。リーダーシップをどのような形でとるのか、自分は部のキャプテンではないけれど、これまでの競技での場面やこれからそのような立場になった時を考えました。リーダーはチームを生活においても競技においてもまとめて引っ張っていく立ち場ですごく大変です。1人1人が立ち位置を明確にすることで、意識が高まっていく、チーム力が高まるんだと学びました。目標、目的について、私も常に意識付けとして自分がこれからどうなりたいたいか、目に見えるようにしています。そうすることによって目的が意識できそまでに何をすべきか明確になると学びました。またそのかていを1つ1つ全力で取り組むことが大事で充実していくという話がすごくひびきました。プレイが結果を全てに考えるのではなく、その過程を大切に全て取り組んでいけばその過程を支えてくれていた周りの人はみとめてくれると学びました。一番大切なのは自分の気持ちの持ち方と目標への向き方で、常に目的を目の前においておくことが不切です。話を聞いた目標の持ち方を頭にいれておこうと思います。」

# アスリートサポートプログラム

担当者 吉田 一也

本学部では、主にスポーツトレーナーコースを選択している学生を対象とした「スポーツトレーナー実習」という科目を開講している。毎年15人前後の学生がスポーツトレーナー実習を履修し、実技形式の授業を通して、より実践的な知識や技能を学んでいる。しかしながら、本学部スポーツトレーナーコースがトレーナーを志す学生にとって有意義な学びを得られる環境となるうえでは、学外との接点が不足していると感じている。そこで、学生の意欲向上ならびに本物を知る機会の提供を目的にスポーツ現場でトレーナーとして活躍されている方の、生の声を聞く機会を設けており、本年度もその取り組みを継続した。講師の方とはオンラインでの対談であったが、学生達は講師の方の話や対話を通して、多様なトレーナーとしての実際の働き方や実際のスポーツ現場でトレーナーに求められることを知ることができたのではないだろうか。本授業で得た学びが、学生達の今後トレーナーを目指していくうえでの指針となることを期待したい。また、トレーナー以外を目指す学生でも、アスリートのサポートをする上で重要なことを理解できた時間であったと感じる。

## <オンラインセミナー>

日時：2022年11月21日（月）

講師：アランマーレ富山ハンドボールチーム アスレティックトレーナー

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー

横川 卓也氏（右下）

**学生の頃に準備していたこと**

- ① トレーニングについて
  - ・ トレーニングの知識は誰よりも持っていたい
- ② アスレティックトレーナーになるための学力
  - ・ 資格取得のための知識と学力
- ③ コミュニケーション能力
  - ・ トレーナーの仕事は結局 人対人

ATヨコガワ

## 受講生レポート

### <スポーツ科学部 3年 前田 さつき>

私は現在、女子野球の選手兼トレーナーと、ダイエット指導をやっていて、トレーナーとしてサポートする時間よりも、それ以外のデータ管理とか、事務作業的な部分が多い。今回、実際の現場で求められていることを聞いて、やっぱりそうなのだと思った。また、選手個人によってアプローチを変えるというのは、ダイエットの指導をしていたりしても、人によって言い方など変えないといけないのは肌感として思っていたことだったので、いまの経験がちゃんと今後に生きるなと思った。講演の中で 1 番印象に残ったことは、「失敗をする」ということ。私は結構完璧にしようっていう気持ちが強く、少しずつ変えていかないといけないなと思っていたので、学生のうちは失敗してもいい状態だから、いろんなことに挑戦して失敗してそこから学んでいきたいなと思った。

### <スポーツ科学部 3年 瀬名波 響貴>

今回、講話を聞いて印象に残ったことは、トレーナーは「評価されにくい」ことです。チームに怪我人がいないことは第三者目線で見ると当たり前であり「普通」であると聞いて、確かに難しい職業だなと感じました。また、何をモチベーションに働いているのかが気になった点でした。「トレーナーを長くチームでやること」が評価なんじゃないかとも思いました。これから自分はトレーナーになりたいと考えているので、実際の現場で求められること等を知れたので良かったです。ありがとうございました。

# 保健体育教員採用試験対策プログラム

担当責任者 今村 律子

2022年度の教員採用試験1次合格者は、小学校2名、中学校11名、高等学校3名の16名であった。また、2022年8月2日～31日渡って梅田教授、柿山教授、今村准教授で、2次試験対策（含実技）を行い、2次試験合格者は佐賀県小学校1名、福岡市中学校2名、福岡県小学校1名、中学校3名、広島県中学校1名、宮崎県高等学校1名の計9名であった。なお、そのうち7名が保健体育教員コースであった。今年度もコロナ禍のため、昨年度に引き続き採用試験内容の一部変更があり、福岡県の一次試験で課されていた集団討論はなく、実技試験は二次試験で課されるようになった。実技指導においては、先生方に指導いただき、学部教員がサポートして下さっている。

## <プログラム内容>

### 令和5年度教員採用試験（令和4年7月～実施）直前対策の実施

- ① 一次試験対策（筆記・実技・面接等の指導も含む） 5月・10月・3月 模擬試験の実施
- ② 二次試験対策（一次試験合格予定者を対象）7月末～8月末実施

### 現役教員の講話・専門家実技指導

- ・現役教員（当学部卒業生を含む）より、採用までの対策および教師生活等の講話

4月11日（月）5限	船津涼先生<福岡県教育庁教育振興部社会教育課 指導主事>
4月18日（月）5限	井土義徳先生<福岡県教育庁教育振興部高校教育課 指導主事>
7月5日（火）1限	中田雅子先生（岡県立筑紫丘高等学校 養護教諭）
7月5日（火）3限	高木浩信先生（福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課参事兼室長）
7月12日（火）1限	小松佐歳先生（福岡県立スポーツ科学情報センター スポーツ推進課長）
7月12日（火）3限	山本秀史先生（福岡県立講倫館高等学校 校長）
12月5日（月）5限	寺崎雅巳先生<福岡県立美術館館長 元福岡県教育委員会副教育長>

\*月曜5限は、教育実習事前事後指導で開催

- ・採用試験実技対策のための指導

7月末～8月中旬	器械運動（大坪助教）、バスケットボール（大関助手）、水泳（金川助手）、ダンス（川崎助教）
----------	--

### 教員採用受験情報集約と報告資料の作成

- ・受験者（4年生）から受験情報を集約し、合格者の報告会を教職関連授業にて実施
- ・今後の参考資料として、報告媒体及び、模擬授業・実技試験の動画を作成

### <2022年度 公立学校教員試験合格者>

木塚智哉（佐賀県小学校）、藤田美祐（福岡県小学校）、澤田美優（広島県中学校）、元村正世、中村ゆりあ、内田倫太郎（福岡県中学校）、青戸真実、前畑成希（福岡市中学校）、鈴木杏依子（宮崎県高等学校）

## 合格者レポート

### <スポーツ科学科4年 前畑成希 (福岡市中学校)>

私は中学生の頃から教員を目指してきました。最初の頃は部活動の顧問がしたいという思いが強くありましたが、大学の教職に関する講義や模擬授業の経験、福岡市学生サポーター等の活動を通して、実際の学校現場を体験し、部活動だけではなく、学校生活を通して、生徒が社会に出ても活躍できる教育をしたいと思うようになりました。勉強は大学3年生から始め、毎日2~3時間勉強していました。この毎日勉強するという習慣を身に付け、継続的に勉強してきた結果が合格に繋がったと思います。また、自分の勉強スタイルを見つけたことが合格までの近道になったのではないかと思います。書いて覚えるタイプ、声に出して覚えるタイプ、赤シートを使って暗記をするのが得意なタイプなど、自分に合った勉強スタイルを探すことも大事な要素だと思います。何事も始めるまでが大変だと思いますが、最初の1歩を踏み出せるかが今後の人生にも大きく影響してくると思うので、みなさんもぜひ大きな一歩を踏み出してください。応援しています。



### <健康運動科学科4年 中村ゆりあ (福岡県中学校)>

私は3年の夏頃に教員採用試験の勉強を本格的に始めました。1.2年の頃に、採用試験に合格された先輩方の体験談を聞き、受験する自治体の過去問分析の大切さや、早めに対策に取り掛かることの重要性を学びました。しかし、大学の勉強にアルバイトと忙しいことを理由に、勉強を本格的にスタートするのが大学3年の夏頃とスタートが遅くなってしまいました。今振り返ってみると、もう少し早く始めていればもっと余裕を持って試験に臨むことができたなと思っています。少しでも周りの受験生と差をつけるためにも、スキマ時間を活用して早めに対策を始めることを強くお勧めします。また、福岡市の学生サポーターや、教育実習の経験を通して、改めて生徒の心に寄り添える教員になりたいという思いが強くなりました。皆さんも、大学4年間で色々な経験をして、自分の目指す理想の教師像や目標を持ってもらえたらと思います。最後になりましたが、長期休みやお盆休みまでも親身になってご指導頂いた先生方や、ライバルでありつつも、辛い勉強の日々を励まし合って乗り越えることができた同級生の仲間たちのおかげで合格を勝ち取ることができました。周りの方々への感謝の気持ちを胸に、私の掲げる理想の教師像を実現していきたいと思っています。



# 健康運動指導者試験対策プログラム

担当責任者 道下 竜馬

## <プログラム概要及び成果>

本プログラムは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士および健康運動実践指導者の資格取得を目指す学生を対象に、下記日程で実技試験および筆記試験対策を健康運動指導演習Ⅰ・Ⅱの授業内で実施した。健康運動実践指導者の実技試験指導については、特別講師として権藤 露氏（スタジオパラディソ；健康運動指導士）をお願いした。

本プログラムの成果として、令和4年度健康運動実践指導者認定試験には3年次生8名が受験し、8名全員が合格した（全体の合格率：60.9%）。第151回健康運動指導士認定試験には4年次生6名が受験し、5名が合格した（全体の合格率：74.3%）。

## <実施日程>

令和4年11月21日～12月5日：健康運動実践指導者実技試験対策講座

令和4年9月19日～10月20日：健康運動指導士筆記試験対策講座

## 合格者レポート

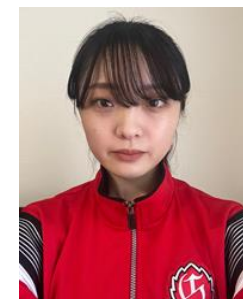
### <健康運動科学科4年 上村 日向（令和4年度健康運動指導士 合格）>

本校の健康運動指導士試験対策プログラムを受講したことで、健康運動指導士の資格を取得することができました。本プログラムでは、單元ごとに専門の先生から学ぶことで理解を深め、模擬試験を行うことで本番を意識しながら試験対策を行うことができました。授業は、各単元の重要なポイントがおさえられており、不安な点は授業の中で質問をして解決することができたため、自信を持って試験に臨むことができました。今後は、本プログラムで学んだことを活かし、より多くの方々の健康維持・向上や介護予防に貢献できる運動指導者を目指していきます。



### <健康運動科学科3年 和田 ひなた（令和4年度健康運動実践指導者 合格）>

健康運動指導者試験対策プログラムを受講したことで、健康運動実践指導者の資格を取得することができました。筆記試験対策では専門分野の先生のご指導のもと、模擬試験から自分の課題を把握し、苦手分野を集中的に取り組むことができ、出題される問題を想定することができました。実技試験対策では、外部の先生から自分では気づけていない癖や時間配分を教えていただきました。また、昨年合格された先輩方にもご指導いただき、試験当日の流れや注意点をアドバイスしていただきました。先生や先輩方のご指導があり、安心して試験を迎えることができました。今後は、健康運動指導士の資格取得に向け、励んでまいります。



# 生涯スポーツ教育実践プログラム

担当責任者 霜島 広樹

生涯スポーツ教育実践プログラムにおいては、学外から講師を招聘し、講演会を実施する「特別講演の開催」や、学外イベント・プログラムへ学生を派遣するといった「生涯スポーツ教育プログラムへのスタッフとしての参画」といった計画を立てていた。「生涯スポーツ教育プログラムへのスタッフとしての参画」については、新型コロナウイルスの影響等から予定していたプログラムを実施することはできなかったものの、特別講演については数年ぶりに開催することができた。コロナウイルスによる様々な行動制限については、少しずつではあるが終息へ向け進んでいるといった印象を受け、来年度以降に関しては「生涯スポーツ教育プログラムへのスタッフとしての参画」の実施を想定して、学生への生涯スポーツ教育プログラムを計画していきたいと考えている。

## 【特別講演の概要】

講演者：柴田勇樹（株式会社レノファ山口 取締役経営管理部長）

日時：2022年6月29日（水）・30日（木）

場所：福岡大学 第二記念会堂 1221 教室

## 【担当責任者総評】

Jクラブにおける現状と課題について、株式会社レノファ山口取締役経営管理部長の柴田勇樹氏にご講演頂いた。柴田氏からプロスポーツチームにおける経営の実態について詳細な説明があり、公演の後にも学生からの質問を基に非常に活発な議論が行われた。スポーツ経営学の教科書にはあまり書かれていないような経営の実態に関する質問（スポンサーの具体的な獲得プロセス、具体的なスポンサー収益など）に対し、柴田氏から詳細な説明を頂けたことは学生にとって良い学びの機会となった。柴田氏からは「所属カテゴリー（J1・J2など）の違いは収入に関係があるが、その中での順位の違いはチケット収集やスポンサー収入にほとんど影響を及ぼしていない」といった印象深いコメントもあり、このようなリアルな経営の実態に触れられたことは、学生にとって貴重な経験になったものとする。





## 受講者レポート

### 受講生レポート①

レノファのマーケティングの施策として一つ目に山口市から山口県のチームにすること、2つ目に家族全員をファンにすること、3つ目にファンと会えることというレノファ山口ならではの施策があり、お話を聞く中で10年間で劇的な成長を遂げた理由を理解することができました。プレゼンの中で特に衝撃を受けたことが3つあり、1つ目はコアなサポーターをさらにヘビーなユーザーにするため、毎試合ごとに新商品を販売すること、2つ目にスポンサー契約を結ぶ企業にはレノファ側から企業の問題と一緒に解決すること、3つ目は、レノファを山口県民に知ってもらうために自分自身から積極的にメディアに顔をだすことである。この3つはかなり自分としては、インパクトがありこのような努力があつてファンが増え、チームが成長していくということを知ることができた。柴田さんにしか聞けないようなチーム事情の細かい内容であったり、様々な質問の中でもあったマネジメントの裏側など聞くことができ、普段味わうことができないような時間を短時間で味わうことができとても良かったです。ありがとうございました。

### 受講生レポート②

授業で勝つことよりも人気のあるほうがチームの経営にとっては大事ということを知っていたのでそこに注目して聞いていました。実際に試合に勝っても負けてもスタジアムの観客動員数はあまり変わらず、スポンサーに関してはもっと関係ないということでした。人気が出るために毎日違うイベントを行ったり SNS を使ったり、選手との距離を近くしたり様々な工夫がありました。今までは勝つことで人気が出る、勝つことが好きにさせる最大の要因だと考えていましたが、実際現場の方の話を聞いて人気があるということがいかに大切か、なぜそっちのほうが大切なのかがわかりました。自分の知らないことなど奥深くまで知れて、とても楽しかったです。

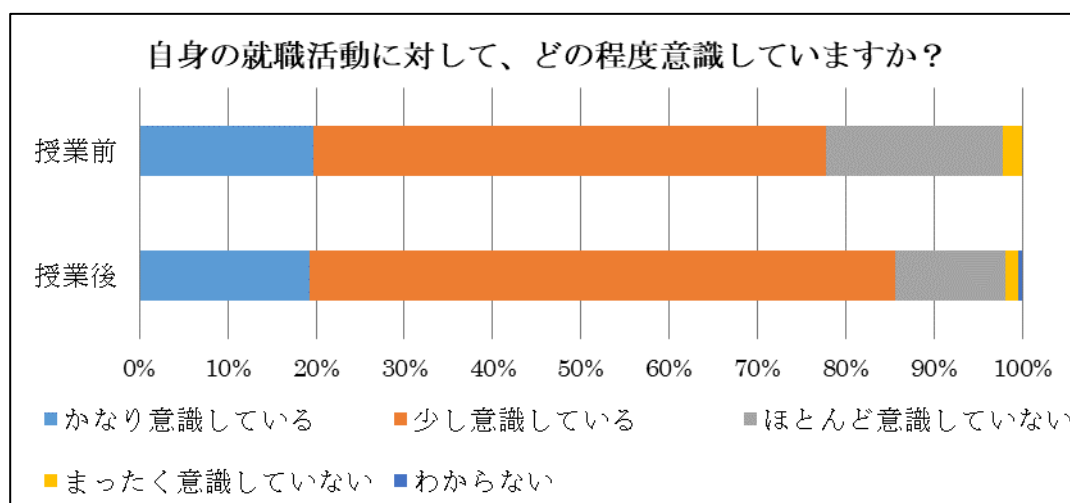
# キャリア教育プログラム

担当責任者 野口 安忠

今年度のステップアップセミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に細心の注意をはらい、対面形式で授業を実施した。授業形態は、受講生全員が同一教室による受講とした。内容については、昨年度と同様に、株式会社リアセック社の PROG テストによる自己診断をはじめ、現任教員やミズノ株式会社、金谷内科クリニックの心臓リハビリテーション指導士など様々な立場で活躍する学部卒業生に協力を仰ぎ、在学生に将来を意識させる動機づけの充実を図った。加えて、昨年度に引き続き大学スポーツ協会 (UNIVAS) ならびに株式会社マイナビで共同開発された「UNIVAS デュアルキャリアプログラム」を講義内容に採用した。また、新型コロナウイルス感染症の流行以前まで実施していた SPI (一般常識力テスト) を再び取り入れ、授業を通じて自身の現状を把握してもらう機会とした。

本授業の目的は、次年度から就職活動をスタートする 2 年次生に、今何を考え準備しておくべきかを考えさせることにある。就職活動に対する意識調査アンケートでは、「自身の就職活動に対して、どの程度意識していますか?」という質問に対し、「意識している」「少し意識している」と回答した学生は、授業前で 77%, 授業後で 86%であった。このように、授業を受講後には就職活動を意識する学生が増加傾向にある。本授業を通じて一人でも多くの学生が、充実した就職活動をスタートしてくれることを願っている。

最後に、今年度も本講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への懸念を払拭できない状況でのスタートとなったが、多くの関係各位のご理解とご協力のお陰により、充実した講義内容・質を確保することができた。ご協力を賜った関係各位に心よりお礼申し上げます。



## 講師一覧

- 第1回 (スタートアップ動画) : ガイダンス
- 第2回 (9月22日) : 一般常識カテスト・意識調査アンケート①
- 第3回 (9月29日) : 本学の就職・進路支援の実際 (キャリアセンター)
- 第4回 (10月6日) : PROGテスト(株式会社リアセック)
- 第5回 (10月13日) : 前原雅樹氏 (金谷内科クリニック・心臓リハビリテーション指導士)
- 第6回 (10月20日) : 花田研聖氏 (県立田川科学技術高校)
- 第7回 (10月27日) : 阿部雅人氏 (株式会社ミズノ 営業統括部)
- 第8回 (11月10日) : PROGテスト フォローアップ(株式会社リアセック)
- 第9回 (11月17日) : UNIVAS デュアルキャリアプログラム(主体性)
- 第10回 (12月1日) : UNIVAS デュアルキャリアプログラム(生き抜く力)
- 第11回 (12月8日) : UNIVAS デュアルキャリアプログラム(セルフコントロール)
- 第12回 (12月15日) : 就職活動と業界企業研究について (キャリアセンター)
- 第13回 (12月22日) : 一般常識カテスト・意識調査アンケート②
- 第14回 (1月5日) : 現役学生による講義 GS190232 前畑成希氏 (福岡市中学校教員)  
GS190137 吉瀬星氏 (糸島市消防)  
GH190324 石野由佳氏 (株式会社 良品計画)

## 受講者レポート

### 第2回 (9月29日) キャリアセンター

今日のステップアップセミナーの授業では今からできることをコツコツすることが大切であると思いました。いろんなことにチャレンジして努力や工夫をして課題の克服し、また新たなことにチャレンジするというサイクルが大切であると思います。何事にもチャレンジしたり、初めてなことに取り組んでみたりすることは怖いものであるけれど、その恐れをなくして、自分の興味があることは片っ端からチャレンジして自分の可能性を広げていきたいと思っています。(GS 女子)

#### 第4回（10月13日）講師：前原雅樹氏（金谷内科クリニック）

今回の講義を聞いて、私自身も健康運動指導士の資格取得を目指しているため、取得できた際に私たちが活躍できる場を広げようと活動してくださっている方がいることに驚きを持ったし、そのことを自覚して行動していきたいと感じた。資格取得に満足せずに、将来自分がどうしていくかを考えながら行動し、自ら動けるようになりたい。（GH 男子）

#### 第5回（10月20日）講師：花田研聖氏（県立田川科学技術高校）

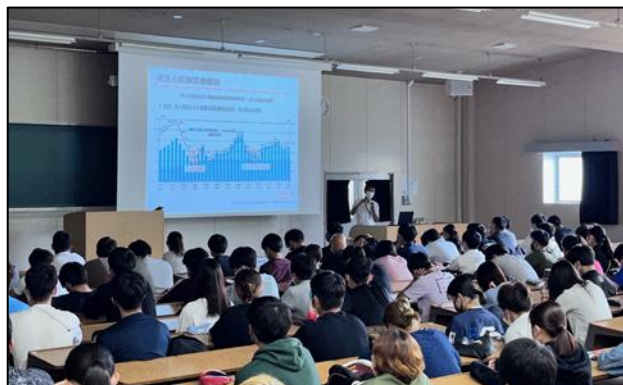
今日の講義は教員を目指している自分自身にとって大変勉強になりました。大学の講義で学んでいることは将来教員になる上で大変役に立ちます。だから日々の講義を大切にして大学卒業した時にこれだけ学んだと胸をはれるような学生生活を送りたいと思います。自分自身の生活を見直すきっかけにもなりました。（GH 男子）

#### 第6回（10月27日）講師：阿部雅人氏（株式会社ミズノ 営業統括部）

成績や技術だけでなく人から好かれる人間性であったり仕事に一生懸命取り組む姿勢や挨拶ができる、コミュニケーションがとれるなどの当たり前の人間性が優れている人が社会から必要とされる人材だと学び、これからたくさんの人と関わってコミュニケーション能力をあげたいと思いました。（GH 女子）

#### 第8～10回（11月10日～12月1日）講師：UNIVAS デュアルキャリアプログラム

考えて計画的に行動することは落ち着いて行動することにつながってくると気がつくことができた。自主的に行動することもそうだが、行動した後のことを考えて行動すると今何をすべきかを知ることができると思った。（GS 女子）



# 令和4年度 成果一覧

## 団体の部

### <陸上競技部>

第91回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子4×100mリレー 第1位

### <なぎなた部>

2022年度全日本学生なぎなた選手権大会 女子団体試合競技 第1位

2022年度全日本学生なぎなた選手権大会 女子団体演技競技 第3位

### <モーターボート・水上スキー部>

第67回全日本学生水上スキー選手権大会 男子団体 第2位

### <ソフトテニス部>

2022年全日本大学選抜王座決定戦 男子団体戦 第2位

2022年全日本大学選抜王座決定戦 女子団体戦 第3位

### <柔道部・女子>

2022年度全日本学生柔道優勝大会 女子5人制 第3位

### <バレーボール部女子>

第69回全日本バレーボール大学女子選手権大会 第3位

## 個人の部

### 国際試合

#### <ゴルフ部>

塩澄 英香(GS3) 第73回USハワイThe Jennie K.Wilson Invitational 女子 200m 第1位

#### <ハンドボール部>

細田 啓輔(GS2) 第17回ハンドボール男子ジュニアアジア選手権 第1位

#### <モーターボート・水上スキー部>

長友 亮(GS2) 2022 IWWF Asian Waterski & Wakesports オープンクラストリック (個人) 第2位

Championships 日本団体総合 第1位

#### <レスリング部>

小林 久美(GS1) 2022年ジュニアクイーンズカップ U20女子68kg級 第2位

2022年全日本学生レスリング選手権 女子68kg級 第3位

2022年フォーデイズ杯全日本女子オープン選手権 女子68kg級 第3位

## 国内試合

### <陸上競技部>

城戸 優来(GS 3)	第 9 回木南道考記念陸上競技選手権大会	女子	200m	第 2 位
	第 35 回南部忠平記念陸上競技大会	女子	100m	第 2 位
	第 91 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子	100m	第 3 位
森山 静穂(GS 3)	2022 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子	400m	第 1 位
	第 62 回実業団・学生対抗陸上競技大会	女子	400m	第 1 位
	第 91 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子	400m	第 1 位
	第 91 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子	200m	第 3 位
平良 光勇真(GS 4)	第 9 回木南道考記念陸上競技選手権大会	男子	100m	第 2 位
	第 35 回南部忠平記念陸上競技大会	男子	100m	第 2 位
原 あかり(GS 2)	2022 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子	800m	第 2 位
安立 雄斗(GS4)	第 56 回織田幹雄記念国際陸上競技大会	男子	三段跳	第 2 位
	2022 日本学生陸上競技個人選手権大会	男子	走幅跳	第 3 位
	2022 日本学生陸上競技個人選手権大会	男子	走幅跳	第 1 位
	第 106 回日本陸上競技選手権大会	男子	三段跳	第 2 位
	第 62 回実業団・学生対抗陸上競技大会	男子	三段跳	第 2 位
	第 91 回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子	走幅跳	第 1 位
	第 91 回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子	三段跳	第 1 位
	第 19 回田島直人記念陸上競技大会	男子	三段跳	第 1 位
宮原 なな佳(GS1)	第 38 回 U20 日本陸上競技選手権大会	女子	5000m	第 3 位
笠原 奈月(GS 3)	2022 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子	3000m sc	第 3 位
真名子 凌成(GS1)	第 38 回 U20 日本陸上競技選手権大会	男子	110mH	第 2 位
水谷 翼(GS2)	第 38 回 U20 日本陸上競技選手権大会	男子	棒高跳	第 2 位
桃田 三四朗(GS 1)	2022 日本学生陸上競技個人選手権大会	男子	走高跳	第 3 位
	第 38 回 U20 日本陸上競技選手権大会	男子	走高跳	第 1 位
大谷 夏稀(GS 4)	2022 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子	砲丸投	第 3 位
アツオビン ジェyson (GS2)	2022 日本学生陸上競技個人選手権大会	男子	砲丸投	第 1 位
	第 106 回日本陸上競技選手権大会	男子	砲丸投	第 2 位
	第 91 回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子	砲丸投	第 2 位
	Athletics Challenge Cup 2022	男子	砲丸投	第 2 位
原田 暁(GS 4)	第 91 回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子	100m	第 1 位
松下 悠太郎(GS 4.)	第 91 回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子	三段跳	第 3 位

<ソフトテニス部>

中村 日紀(GS 4) 第 56 回全日本学生選抜 男子 ダブルス 第 1 位  
永江 孝二郎(GS 1) ソフトテニスインドア選手権大会

<ヨット部>

鈴木 杏依子 (GS4) 第 30 回全日本学生女子ヨット選手権大会 女子 スナイプ級 第 2 位

<モーターボート・水上スキー部>

鈴木 太智(GS3) 2022 年全日本学生水上スキー選手権大会 第 1 戦 男子スラローム 第 1 位  
チャンピオンシリーズ 第 2 戦 男子スラローム 第 1 位

<ゴルフ部>

塩澄 英香(GS3) 第 22 回 ALL JAPAN 女子学生アマチュアゴルフ トーナメント 2022 第 3 位

## 教員採用試験

<小学校>

木塚智哉・佐賀県(GS4) 藤田美裕・福岡県(GS4)

<中学校>

澤田美優・広島県(GH4) 元村正世・福岡県(GH4) 中村ゆりあ・福岡県(GH4)

内田倫太郎・福岡県(GS4) 青戸真実・福岡市(GS4) 前畑成希・福岡市(GS4)

<高等学校>

鈴木杏依子・宮崎県(GS4)

## 健康運動指導士及び実践受講者認定試験

<健康運動指導士>

・ 151 回認定試験合格者

宇佐美夕菜(GH4) 岡希美(GH4) 上村日向(GH4) 永野紘太郎(GH4) 出口陸(GH4)

<健康運動実践指導者>

長田湧(GH3) 内崎鈴奈(GH3) 久保田華実(GH3) 園田遥香(GH3) 和田ひなた(GH3) 田中萌(GH3)

重久葵(GH3) 西江美紅(GH3)

高瀬茉理子(GS4) 藤岡由衣(GS4) 水元翼(GS4) 山本涼太(GS4)

令和4年度「福岡大学 学部教育充実予算」  
体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書

---

発行	令和5年 3月
編集	米沢利広 乾真寛 吉田一也 道下竜馬 野口安忠 村川誠 今村律子
発行者	福岡大学スポーツ科学部 福岡市城南区七隈8丁目19番1号 092-871-6631 (代表)

---



<https://www.spo.fukuoka-u.ac.jp/>

